

# 夢窓幼稚園通信第49号

2024年11月1日

毎朝昇ってくるおひさまを迎え、夜になると暗れていたら輝く星を数えるのどかな日々の中で、ふと地球が大空の広がりには浮かんでいる様子を思い浮かべてみたら、どこか果てしないところへ落ちていってしまわないかと... ちょっと不安になりました。

実際 例えば太陽系の星々も 銀河も、ものすごい速度で移動しているらしいのですが、私たちはそれぞれの場所で振り落とされることなく同じ所に立っていられますのですから、宇宙にはすごい力が働いていて 全体素敵なバランスで成り立っているので、地球も当分は飛ばされたり落ちていったりはしないのでしょう。

宇宙の星々のひとつとして、かけがえのない地球の上にいる私たちの秋に、おいもや大根が育ち、果物が実り... 美しい青空や夕焼けが与えられているのは、何と幸せなことなのでしょう！

それなのに、そんな祝福された大地の上で... ミサイルを打ち合ったり、必要をだけ少し使わせてもらっている土地を自分のものにして大金を稼いだり、異様な気象を生み出してしまふ私たちの文化。

子どもたちが... 私たちが... これから生まれてくるいのちたちが... 生きる未来に向けて、確かな道を探し求め やがてみつけることができるように、私たちの内面に光を注ぎ、そとインスピレーションを与えてくれる おひさまに、静かに祈りました。

ところで 月と地球の天体としての距離はどのくらいなのかご存じでしょうか。

私は理科の教科書や図鑑の図にあるように、月は地球の割と近くをぐるぐると回っているのだと思い込んでいました。2つの星の距離はおよそ38万km、地球の直径は1万2700km。ということは、地球を直径1mの風船とするなら、およそその30倍の30m離れたところを月は回っているのです。

最近 はじめてそのことを知りました。

宇宙はほんとうに広いのです。月は本の図のイメージよりずっと離れたところにあるのです。

それでもなお、月は身近です。毎夜眠った月の佳人である私です。何かは心に向けて、心を寄せると、その存在との距離は限りなく近づきます。それが「心の距離」なのでしょう。

これからの季節 私たちの心は内面に向かい、外界の中にも内面を見出すようになるでしょう。

一人ずつのよき11月を過ごせますように！

園長 弁光 泰雄